



# スピリット 常中魂

平成28年 1月29日 NO・96

〒311-1114 水戸市塩崎町1016  
TEL029-269-2116 FAX029-269-3160  
Mail tunezumi-j@magokoro.ed.jp

【ホームページで、カラー版が見られます】

## 「学び合い」の授業の成立

平成27年度は、常澄中学校の全学年、全クラスで、「学び合い」による授業の実現をめざしてきました。

「学び合い」の授業とは、教師の一方的な説明に終始する授業ではない。また、一部のできる人だけが活躍できる授業ではない。生徒相互が、互いに意見を述べ合うなど、コミュニケーションを通し、全員で学び合う授業、のことです。

### 一年三組 数学の授業（小室教諭担当）

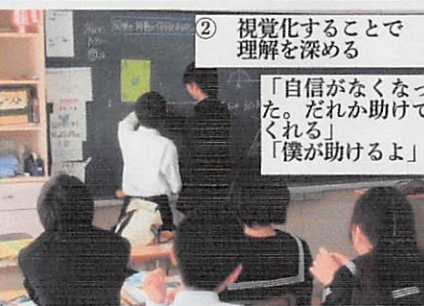
「はい、では班になってください。今日の課題は、『図形の移動と作図の利用』です。本来は、問題を先に提示すべきかもしれませんが、小室先生は一本時のねらいを先に生徒たちに示しました。ほぼ同時に、問題が書かれたプリントが配布されました。（写真①）プリントには、おおむね以下のようなことが書かれていました。次の手順で、長方形ABCDを直線Lに沿っ

① 休みの子のために、プリントを丁寧に机の中に入れる生徒たち



② 視覚化することで理解を深める

「自信がなくなってきた。だれか助けてくれる」「僕が助けるよ」



③ 問題解決学習の要『自力解決』自力解決の時間は、静寂が命



④ 助けが必要と感じる人が「教えて」と発言できる授業

て転がしていく。① 点Cを中心にして、点Dが直線L上に来るまで長方形ABCDを回転させる。② 点Dを中心として、点Aが直線L上に来るまで回転させる。③ 長方形ABCDが元の状態になるまで回転させる。この説明どおりのことを、二名の生徒が黒板の前で実演しました。（写真②）このように、視覚化することで、クラス全員が、問題状況を具体的に理解できたようでした。その上で、先生から改めて問題が示されました。

【問題】点Aが動いた後にできる線はどのようになるか。この後、自力解決の時間がありました。（写真③）しばらく一人でやっていた生徒が、「これわからない。教えてくれる」という呟きで、自然発生的に、班は、「学び合い」の時間に移行していききました。（写真④）

クラスに温かな絆がないと「学び合い」の学習は成立しません。このクラスには、クラスの和・絆が育っていることが見て取れます。例えば、写真①を見てみてください。プリントが配られたとき、休みの生徒のプリントは、近くの生徒が、きちっと机の中に入れていました。（立っている男女一名ずつが、プリントを友の机の中に入れていた。）

写真②を見てみてください。この場面は、本当にすばらしいです。ある生徒が問題文の指示通り図形を動かそうとしましたが、一部自信がなくなってしまうました。その時の彼の行動と、クラスの仲間の行動がすばらしいです。「誰か、助けて」とAさんが、まったく自然に助けを求めました。友を信頼していなければ、授業中に「助けて」とは言えません。「助けて」と、言っていないのに、先回りして答えを言ってしまうのは、単なる出しゃばりです。本当に良いクラスは、「分かっている人が得意げに発表する」のではなく、分からない人が安心して、「助けて」と言えるクラスです。このクラスのように、絆ができていっていると、本当に自然に、分からない人、助けを求めている人が「わからない。教えて。」と言えます。写真③を見てみてください。

よい授業では、自力解決の時間には、物音がクラスから一切消えます。静寂の時間をつくれぬ授業、静寂のないクラスは、大抵荒れてしまします。この静寂こそ、学び合いを成立させる基本中の基本の学習技能です。お笑い芸人のようなツツコミや笑いは、このときは無用です。例えば良くありませんが、「お通夜のような静かさが重要」と言う人もいます。写真④を見てみてください。

この写真も、「ここが分からない。教えてくれる。」と友に質問し、自然と学び合いが生まれた瞬間の写真です。一対一で分からないときは、班員に助けを求めます。それでもダメなら、他の班に、それでもダメならクラス全体に助けを求めます。

授業は、できる人、声の大きい人、ちょっとユーモアのある人の独壇場ではありません。静かな人、じっくり考えたい人、分からない人が萎縮してしまう授業と、対極にある授業が、この授業でした。一年生たちも、二・三年生に負けず、この一年間でずいぶん成長しました。大変にうれしく感じられます。